

第3回（平成23年度）「KYOTO 地球環境の殿堂」表彰式 京都環境文化学術フォーラム「国際シンポジウム」開催概要

1 日時

平成24年2月12日（日）

■「KYOTO 地球環境の殿堂」表彰式 午後1時～1時15分

■京都環境文化学術フォーラム国際シンポジウム 午後1時30分～5時

2 場所

国立京都国際会館 メインホール

3 内容

（1）「KYOTO 地球環境の殿堂」表彰式

クラウス・テプファー氏（先端的持続可能性研究所所長／ドイツ連邦共和国）及びレスター・R・ブラウン氏（アースポリシー研究所所長／アメリカ合衆国）を第3回殿堂入り者として顕彰し、認定証及び記念品を授与しました。殿堂入り者からは記念スピーチを頂戴しました。



会長式辞



認定証の授与



記念品（風神雷神図（西陣織）授与



記念スピーチ

(2) 国際シンポジウム

『「グローバルコモンズを目指して」－東日本大震災の経験から考える未来の道－』をテーマにシンポジウムを開催しました。

ア 記念講演① クラウス・テプファー氏



東日本大震災及びそれに伴う原子力発電所の状況をふまえ、自国ドイツのエネルギー政策の転換に焦点をあててお話されました。具体的には、ドイツにおける脱原発の動き、再生可能エネルギーの普及、スマートグリッドの普及について話されました。そして、二酸化炭素の排出を高めることなく、エネルギーの自給自足をしながら脱原発することが重要である旨述べられました。

イ 記念講演② レスター・R・ブラウン氏



化石燃料から再生可能エネルギーへのエネルギー転換について、また、各種の世界における再生可能エネルギーの開発の状況について分析されました。そして、2020年までに二酸化炭素を80%削減する必要があること、そのためにエネルギー経済を再構築する必要がある旨述べられました。

ウ シンポジウム



〔報告者〕

佐々木 健氏(岩手県大槌町教育委員会生涯学習課長)

赤坂 憲雄氏(学習院大学教授)

〔コメンテーター〕

クラウス・テプファー氏

レスター・R・ブラウン氏

〔統括コメンテーター〕

秋道 智彌氏(総合地球環境学研究所副所長)

エ 内容

○佐々木氏報告

- ・ 東日本大震災で壊滅的な被害を受けた岩手県大槌町の当時の状況を、写真を交えて報告されました。
- ・ 大槌町は、町の復興に向けて基本条例を制定し、住民の関与を明文化され、住民の方々と一緒に復興に取り組んでいくことを示されました。

○赤坂氏報告

- ・ 昔の人々は、過去に発生した自然災害の経験を踏まえ、安全な場所を自然と選択し、そこに居を構え生活していたと指摘されました。
- ・ 自然環境を分割し個人の所有にしてきたのが近代社会といえるが、東日本大震災を契機に、入会地やコモンズという考え方を導入すべきではないか、人と自然との関係を再度構築すべきではないか、ということを提言されました。

○テプファー氏コメント

- ・ これまでは、自然災害に対抗することを考えていたが、これからは災害を最小限にするための減災を考える必要がある旨、そして、エネルギー集約型の生活を見直し、幸せを再考する必要があることに気づかされた旨述べられました。

○ブラウン氏コメント

- ・ 日本は耐震性のある建築物を造るという点では世界のパイオニアといえ、高度な防災システムが構築されていたにもかかわらず、東日本大震災では多大なる被害が発生してしまっており、改善しておくべき点がなかったのかということについて問題提起されました。

○秋道氏総括

今回のシンポジウムでは、人と人のつながり、人と自然のつながりの大切さを再認識したことを述べられました。また、防波堤などのハードウェアのみならず、自然や文化の共生という視点を取り入れた町づくりを進める必要がある旨総括されました。